

尼崎の自然ハンドブックへの掲載種について

1 第5回部会・事前確認での主なご意見と対応

(1) つながり種 [別紙1のとおり]

- ・指標種には「良い環境を示すもの」、「特殊な環境を示すもの」などが混在しており、グループ分けの考え方に違和感がある（カワジシャもオオカワジシャも両方が指標種になっているなど）。[第5回部会]
- ・子供が指標種を見つけた時に、どのように理解したらいいのがわかりにくい。また、重要種、外来種といった視点もあり、重複するとわかりにくい。[第5回部会]
- ・どのような環境を指標しているのかも示しながら、「良い環境の指標になるもの」と「悪い環境の指標になるもの」に分類してはどうか。[第5回部会]
- ・指標種については尼崎が増やしたい環境、増やしたくない環境を整理し、それらの環境との関係を整理する必要がある。[第5回部会]
- ・「指標種」という用語の一般的な意味と異なる意味で用いると、混乱・勘違いが生じるのではないか。[事前確認]

➡生物に興味・関心のない者であっても気軽に発見^{※1}・判別できることを前提に、生物の生息・生育環境^{※2}と季節^{※3}（春・夏・秋・冬・季節性なし）を指標できる種を選定しました。[補足説明①～③]

※1 植物・鳥類・昆虫：10地点以上、魚類・底生動物・哺乳類・両生類・爬虫類：5地点以上

※2 樹林、草地、河川（いわゆる流れのある部分）、水辺（河川の岸周辺、公園内の小川など、陸域の一部と止水域・穏流域の範囲）、田畑・水路、海・運河、住宅地

※3 春、夏、秋、冬、季節なし

➡指標種という用語を「つながり種」に改めることとします。[補足説明④]

【補足説明】

- ①同一の環境に重要種（希少種）と外来種が生息・生育している場合があるなど、特定の種の存在の有無のみで環境の良し悪しを判断することは困難であったため、多様な生物の生息・生育環境があることを確認できる種を抽出することとしました。
- ②戦略の将来像として「生き物と共生した四季を実感できるまち」の実現を目指すこととしているため、季節を実感できる種を抽出することとしました。
- ③当初の指標種案では希少であるという理由（貴重な環境であるという意味合いも含め）から重要種（希少種）、生態系などに悪影響を及ぼす可能性があるという理由から特定外来生物を指標種に加えていましたが、今回の選定作業では、①・②の考え方に基づき選定することとしたため、単に希少である、または生態系に悪影響を及ぼす可能性があるといった視点から種は行わないこととしました。
- ④「指標種」という用語が、一般的な定義と異なる意味で用いられることで、混乱・勘違いを生じさせる可能性があることから、環境や季節とのつながりを感じられる種（生き物とつながってほしいという意味も込めて）として「つながり種」という用語を用いることとしました。

(2) 希少種 [別紙2のとおり]

- ・尼崎において重要だと思われるものをレッドリストとしてリスト化していくことが大切である。細かな根拠資料を用意し、議論すると何年もかかってしまうので、兵庫県と同様に部会での発言に基づきリスト化すればよいのではないか。[第5回部会]
- ・疑わしい種はリストには掲載しないこととし、今後、確認された場合にリストに入れればよい。[第5回部会]
- ・「重要種」という用語は、絶滅危惧種だけでなく、シンボリックな種なども含む印象がある。[事前確認]

- ➡環境省・兵庫県・大阪府のレッドリストにおける掲載種・ランクを基本とし、逸出種や植栽種、10年以上前の確認情報しかない種については除外するとともに、委員の皆さまからのご意見を選定種・ランクに反映させ、リスト化したものを尼崎版レッドリストとしました。[補足説明①]
- ➡重要種という用語を「希少種」に改めました。[補足説明②]

【補足説明】

①重要種（希少種）のランクについては次のとおりとしています。（第5回部会資料 抜粋）

ランク	意味
A	絶滅の危機が非常に高い、危機に瀕している
B	絶滅の危険が高い、増大している
C	生存基盤が脆弱、その他情報不足

②「重要種」という用語については、各種レッドリストへの掲載種だけでなく、天然記念物に指定されている種などを含めた種とする場合もあり、誤った印象を与える可能性があることから、稀にしか見ることができない、生存基盤が脆弱であるといった本来の意味がわかるよう尼崎版レッドリストに掲載する種については「希少種」を用いることとしました。

(3) 外来種

※特に部会でご意見などはありませんでした。

2 尼崎の自然ハンドブックへの掲載種

- ・各ページの見出しを考慮しながら、冊子全体でつながり種：30～40%、普通種^{※1}：30～40%、希少種：20%、外来種^{※2}：10%程度になるよう掲載しています。

※1 日常的に目にするもの（目にするだけになっている生物について、種名や特徴などを知ってもらい）、形・色・鳴き声などに特徴があるなど、身近な生物への興味・関心を喚起することができる種とする。

※2 外来生物法に基づく特定外来生物、生態系被害防止外来種リストや兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リストのうち尼崎で確認されている種とする。

- ・尼崎の自然ハンドブックについては紙面が限られることから、つながり種・希少種については一覧表に整理し本市HPに掲載することとしています。

3 つながり種・希少種・外来種の捉え方

- ・様々な生物の生息・生育環境が存在すること（つながり種）、季節ごとに様々な/異なった種が存在すること（つながり種）、希少種が存在し続けること、外来種が存在しないことの4つがバランスよく実現することの重要性を知ってもらい、このきっかけとします。

植物	①発見が容易か、判別しやすい特徴があるかを考慮して選定						②指標する生物の生息・生育環境の種類						③季節性の有無						
	種名	変更点	発見が容易か	識別がしやすいか	識別上の特徴	一次選定	選定結果	樹林	草地	河川	水辺・水際	田畑・水路	海・運河	住宅地	春	夏	秋	冬	なし
●：第5回部会から引き続き選定 ×：今回の整理で除外 ★：今回の整理で新たに選定																			
スギナ	●	●	■	形	つくし(胞子茎)が特徴的	2	選定		●						●				
デンジソウ	×		■	形	葉は四葉のクローバーに似る。	1	除外(RL)				●								●
ヒメミズワラビ	×		■	形		1	除外(RL)					●					●		
ハクモクレン(植栽種)	★		■	形	白い花が半開き状に上向きに咲く	1	選定						●	●					
コブシ(植栽種)	★		■	形	春に葉のない木に白く大きな花が咲く。	1	選定							●					
ヒガンバナ(植栽種)	★	●	■	色	9月中旬に赤い花びらが長い花の咲かせる	2	選定		●			●		●			●		
ツルボ	★		■	形	秋に薄いピンクの小さい花を穂状に咲かせる	1	選定		●						●	●			
チガヤ	●	●	■	形	穂は細長く直立し、最初は濃赤で、のちに穂が開いて白色になる。	2	選定		●			●			●				
オギ	★		■	形	ススキに似ており、間違われることも多い。ススキと比べて株にならず、ある程度の間隔を保って広がる。	1	選定			●	●						●		
ナンテン(植栽種)	★	●	■	形	葉は丸みがあり、先がとがる。冬に赤い実がたくさんつく。	2	選定							●				●	
ムクノキ	●	●	■	形	葉はギザギザで、触ると紙やすりのようにざらざらする。	2	選定	●		●				●			●		
エノキ	●	●	■	形	葉の形が左右非対称。	2	選定	●		●				●			●		
ユキヤナギ(植栽種)	★	●	■	形	白色の花の塊が垂れ下がって咲く。	2	選定							●	●				
アラカン	●	●	■	形	葉はギザギザで光沢があり、ドングリになる。	2	選定	●						●			●		
ヤマモモ(植栽種)	★	●	■	形	葉は丸みがあり、先がとがる。夏に赤い果実がなり、甘くて食べられる。	2	選定	●						●	●				
カタバミ	★	●	■	形	黄色く先の丸い5枚の花弁とクローバーのような葉が特徴。実は小さなオクラのような形のものが上に向かってつく。	2	選定	●	●			●		●	●				
スマレ	★		■	色	濃い紫色まれに白色の花をつける。葉は細長い楕円形で葉柄に翼がある。	1	選定		●			●		●	●				
ヒメミソハギ	×					0	除外(RL)												
ナズナ	★		■	形	茎の先に集まるように白い小さい花を咲かせる。ハート型に近い逆三角形の実を茎から飛び出したようにつける	1	選定		●			●		●					

植物		①発見が容易か、判別しやすい特徴があるかを考慮して選定					②指標する生物の生息・生育環境の種類						③季節性の有無								
種名	変更点	発見が容易か	識別がしやすいか	識別上の特徴		一次選定	選定結果	生物の生息・生育環境						季節性							
				香	形			色	形	色	形	色	樹林	草地	河川	水辺・水際	田畑・水路	海・運河	住宅地	春	夏
キンモクセイ(植栽種)	★	●	■	香	橙色の小さな花があり、香りが強くて離れていても匂いがする。	2	選定											●			
オオカワヂシャ	×		■	形		1	除外			●	●	●						●			
カワヂシャ	×					0	除外(RL)														
ホトケノザ	★	●	■	色	茎の周りを囲む台座のような葉と横から見ると馬の頭のように見える紫～ピンク色の花が特徴	2	選定		●			●					●				
ムラサキシギゴケ	★		■	形	紫色の花。唇型の花で、上側の花弁は小さく、下側の花弁は大きく広がっている。下側の花弁の中心に黄色の斑点がある。	1	選定		●			●					●				
ハハコグサ	★		■	形	全体的に毛が多く、茎や葉が白っぽく見える。先端の花の部分は黄色。	1	選定		●			●					●				
ノゲシ	★	●	■	形	タンポポのような花が咲き、葉がギザギザ。	2	選定		●			●			●						●
カンサイタンポポ	★		■	色	花は黄色。花のがくのような部分(総苞片)が、反り返らない。	1	選定		●								●				
セリ	★		■	形	小さな白い花が塊になって咲く。葉はギザギザで独特の香りがある。	1	選定			●	●							●		●	

鳥類

①発見が容易か、判別しやすい特徴があるかを考慮して選定

②指標する生物の生息・生育環境の種類

③季節性の有無

種名	変更点	発見が容易か	識別がしやすいか	識別上の特徴		一次選定	選定結果	生物の生息・生育環境							季節性				
								樹林	草地	河川	水辺・水際	田畑・水路	海・運河	住宅地	春	夏	秋	冬	なし
オシドリ	×		■	色	オスの橙色を基調とした色彩と、飾り羽に特徴がある。	1	除外			●	●							●	
マガモ	★		■	色	オスの灰色を基調とした色彩に、光沢のある緑色の頭部が特徴的。	1	選定			●	●							●	
カルガモ	★	●	■	色	地味な色彩だが、先端だけが黄色で目立つ嘴が特徴的。	2	選定			●	●								●
ホシハジロ	●		■	色	オスの体色は、黒色、灰色、赤褐色の対比が特徴的。	1	選定			●			●					●	
カワウ	×	●	■	形		2	除外			●	●								●
イカルチドリ	×					0	除外												●
コチドリ	★		■	形	目の周りの黄色い縁取りが目立つ(類似種あり)	1	選定			●				●					
ユリカモメ	★	●	■	色	赤い嘴が特徴的。	2	選定			●								●	
カワセミ	●		■	色	光沢のある青色の体色が美しい。	1	選定			●	●								●
コゲラ	●		■	色	背面は黒色に白色斑紋が入り、対比が鮮やかな色彩。	1	選定	●											●
シジュウカラ	●	●	■	色	頭部が黒色で耳の周りが白く、背面の緑色と青灰色の対比が特徴的。喉から胸にかけて、太い黒色帯が目立つ。	2	選定	●											●
ヒバリ	×		■	鳴声		1	除外(RL)		●			●							●
ツバメ	●	●	■	形	翼が鎌形の飛翔系で、尾羽が左右2方向に分かれた「燕尾形」をしている。	2	選定	●	●			●		●	●				
ヒヨドリ	×	●	■	形		2	除外	●											●
スジロ	●	●	■	色	いわゆるウグイス色の緑色に、目の周りの白色環が目立つ。	2	選定	●											●
オオヨシキリ	●		■	鳴声	逆立つ冠羽が特徴的。鳴くと口の中の橙色が目立つ。	1	選定		●					●					
インビヨドリ	★		■	色	青色と赤色の色彩対比が鮮やか。	1	選定						●						●
ハクセキレイ	★	●	■	色	体色に白味が多く、遠くからでもよく目立つ。	2	選定			●									●

昆虫類

①発見が容易か、判別しやすい特徴があるかを考慮して選定

②指標する生物の生息・生育環境の種類

③季節性の有無

種名	変更点 ●：第5回部会から引き続き選定 ×：今回の整理で除外 ★：今回の整理で新たに選定	発見が容易か	識別がしやすいか	識別上の特徴		一次選定	選定結果	生物の生息・生育環境							季節性							
								樹林	草地	河川	水辺・水際	田畑・水路	海・運河	住宅地	春	夏	秋	冬	なし			
								アオイトトンボ	×		■	色		1	除外				●			
アオモンイトトンボ	★	●	■	色	小型のイトトンボ、細長い体つきで、腹端に水色の色彩が目立つ	2	選定			●	●	●									●	
ハグロトンボ	●		■	色	金属光沢のある緑色の体色に、黒色の翅が特徴的。	1	選定			●	●	●						●				
クロスジギンヤンマ	★		■	色	大型のトンボで、青色と薄緑色の配色が特徴的。	1	選定				●				●							
ギンヤンマ	★		■	色	大型のトンボで、青色と薄緑色の配色が特徴的。	1	選定			●	●							●				
ショウジョウトンボ	●		■	色	全身が赤色。	1	選定			●	●							●	●			
シオカラトンボ	●	●	■	色	オスとメスで色彩が異なる。目は薄緑色。オスは腹(前半)が白く粉を吹く。	2	選定			●	●	●										●
アキアカネ	●		■	色	赤とんぼであるが、腹部は赤くならない。	1	選定			●	●										●	
オオカマキリ	●		■	形	大型のカマキリ。翅が紫色に着色。	1	選定		●												●	
クビキリギス	★		■	鳴声	春に「ジーー」と大きな声で鳴き始める。	1	選定		●						●							
ニシキリギス(キリギリス)	★		■	鳴声	チョン、ギースという鳴き声に特徴がある。	1	選定		●									●				
ヒガシキリギス	×		■	鳴声	チョン、ギースという鳴き声に特徴がある。	1	除外		●									●				
カンタン	★		■	鳴声	ルルルル、という鳴き声に特徴がある。	1	選定		●									●	●			
マツムシ	★		■	鳴声	チンチロリンという鳴き声に特徴がある。	1	選定		●													
エンマコオロギ	●	●	■	鳴声	ココロコロリーという鳴き声に特徴がある。	2	選定		●					●						●		
カネタタキ	★	●	■	鳴声	鐘を叩くような鳴き声に特徴がある。	2	選定	●						●				●	●			
ショウリョウバッタ	●	●	■	形	大型のバッタで存在感がある。頭がとがる。	2	選定		●									●	●			
トノサマバッタ	★		■	形	大型のバッタで存在感がある。頭が丸い。	1	選定		●									●	●			
クマゼミ	×	●	■	鳴声		2	除外	●						●				●				
アブラゼミ	★	●	■	鳴声	シワシワシワという鳴き声に特徴がある。	2	選定	●						●				●				
ヒグラシ	★		■	鳴声	カナカナカナという鳴き声に特徴がある。	1	選定	●														
アメンボ	●		■	形	小さな体から、長い脚が広がる。	1	選定			●	●	●										●

昆虫類

①発見が容易か、判別しやすい特徴があるかを考慮して選定

②指標する生物の生息・生育環境の種類

③季節性の有無

種名	変更点	発見が容易か	識別がしやすいか	識別上の特徴		一次選定	選定結果	生物の生息・生育環境						季節性				
								樹林	草地	河川	水辺・水際	田畑・水路	海・運河	住宅地	春	夏	秋	冬
マツモムシ	●		■	形	弾丸型の体で、背面を上にして水面近くにとまる。	1	選定			●	●							●
イチモンジセセリ	★	●	■	色	三角形で茶色の翅に、一直線に並ぶ銀紋が特徴的。	2	選定		●					●				●
ヤマトシジミ本土亜種	★	●	■	色	淡い灰色の翅に、黒点が並ぶ(類似種がある)	2	選定		●					●				●
コムラサキ	★		■	色	翅の表面の色彩が、紫色と橙色の対比で印象的。	1	選定	●										●
ゴマダラチョウ本土亜種	★		■	色	黒色の翅に、白紋が並ぶ色彩が印象的な大型種。	1	選定	●										●
コムスジ本州以南亜種	★		■	色	黒色の翅に、白紋が列状に並ぶ色彩が印象的な種。	1	選定	●										●
アオスジアゲハ	●	●	■	色	濃茶褐色の翅に、鮮やかで太い青緑色の筋が入る。大型種。	2	選定	●						●				●
ツマキチョウ本土亜種	★		■	色	白色の前翅の先端が鮮やかな黄橙色で印象的な種。後翅の裏面は雲紋が目立つ。	1	選定		●					●				
コクワガタ	●		■	形	小型のクワガタムシ。あごの前半部に、大きな歯が目立つ。	1	選定	●										●
チビクワガタ	×		■	形	筋の入った前羽と、しっかりとした形のあごが特徴。	1	除外(RL)	●	●									●
シロテンハナムグリ	★	●	■	色	金属光沢のある濃褐色の体に、白色の斑点が入る(類似種がある)	2	選定	●	●									●
カブトムシ	★		■	形	オスの角が特徴的。	1	選定	●							●			
タマムシ	★		■	色	玉虫色の体色が特徴的。	1	選定	●										●
ヒメボタル	●		■	色	夜間に発光する。	1	選定			●				●				
セグロアシナガバチ本土亜種	★	●	■	色	黒と橙黄色の混じる斑紋が目立つ。	2	選定							●		●		●
キムネクマバチ	★	●	■	色	黒色の体色に、黄色の胸部が目立つ。	2	選定							●	●			●

哺乳類・両生類・爬虫類

①発見が容易か、判別しやすい特徴があるかを考慮して選定

②指標する生物の生息・生育環境の種類

③季節性の有無

●：第5回部会から引き続き選定
 ×：今回の整理で除外
 ★：今回の整理で新たに選定

網名	種名	変更点	発見が容易か	識別がしやすいか	識別上の特徴	一次選定	選定結果	生物の生息・生育環境							季節性					
								樹林	草地	河川	水辺・水際	田畑・水路	海・運河	住宅地	春	夏	秋	冬	なし	
両生綱	ニホンアマガエル	●	●	■	鳴声 目の前後に黒帯がある。	2	選定				●	●					●			
	ヌマガエル	●	●	■	色 土色の体色で、腹面が白色。	2	選定					●						●		
爬虫綱	ニホンイシガメ	★	●	■	形 甲羅(背中)の稜が1本	2	選定			●	●							●		
	ミシシippアカミミガメ	×	●	■	色	2	除外			●	●									●
	ニホンヤモリ	●	●	■	形 トカゲ形で、吸盤が目立つ。	2	選定	●										●		
	ニホンカナヘビ	●	●	■	形 トカゲ型で、全身が茶色で、光沢がない。	2	選定	●	●									●		
	アブラコウモリ	★		■	形 翼がある。	1	選定					●		●						

魚類

①発見が容易か、判別しやすい特徴があるかを考慮して選定

②指標する生物の生息・生育環境の種類

③季節性の有無

種名	変更点	発見が容易か	識別がしやすいか	識別上の特徴		一次選定	選定結果	生物の生息・生育環境						季節性					
								樹林	草地	河川	水辺・水際	田畑・水路	海・運河	住宅地	春	夏	秋	冬	なし
ニホンウナギ	★	●	■	形	体が細長く、体がぬめる。	2	選定			●			●						●
ドジョウ	●	●	■	形	体が細長く、口の周りにひげがある。	2	選定			●	●	●							●
ナマズ	★	●	■	形	体が太い。口の周りにひげがある。	2	選定			●	●	●	●						●
アユ	●		■	色	サケのような顔つきで、体系は流線型。	1	選定			●						●	●		
ボラ	★	●	■	形	体を上から見ると頭部が幅広くエラから尾に向けて細くなっていく。	2	選定			●			●		●				
ミナミメダカ	●	●	■	形	小型で目が大きい(類似種がある)。	2	選定			●	●	●							●
スズキ	★	●	■	形	大型で、ヒレにトゲが目立つ。	2	選定			●			●					●	
クロダイ	★		■	色	体色が銀色で、淡い横縞が目立つ場合がある。	1	選定						●		●				

底生動物

①発見が容易か、判別しやすい特徴があるかを考慮して選定

②指標する生物の生息・生育環境の種類

③季節性の有無

種名	変更点	発見が容易か	識別がしやすいか	識別上の特徴		一次選定	選定結果	生物の生息・生育環境						季節性					
								樹林	草地	河川	水辺・水際	田畑・水路	海・運河	住宅地	春	夏	秋	冬	なし
カワニナ	●	●	■	形	巻貝で、形は紡錘形。	2	選定			●	●								●
テナガエビ	★		■	形	手が長いエビ。	1	選定			●									●
スジエビ	●	●	■	形	体色は透明で、体に黒色の筋が入る。	2	選定			●	●								●
アメリカザリガニ	×	●	■	形		2	除外			●	●	●							●
モクズガニ	●	●	■	形	ハサミに毛が密生している。	2	選定			●	●								●

区分	種名	ご指摘・ご意見
植物	アラカシ	普通種
植物	エノキ	提案種、普通種
植物	オギ	提案種
植物	カタバミ	提案種
植物	カワヂシャ	絶滅危惧種
植物	カンサイタンポポ	提案種、絶滅危惧種
植物	シロバナタンポポ	提案種、絶滅危惧種
植物	スマレ	提案種
植物	セイタカアワダチソウ	外来種
植物	セイバンモロコシ	外来種
植物	セリ	提案種
植物	チガヤ	普通種
植物	デンジソウ	絶滅危惧種
植物	ナガエツルノゲイトウ	外来種
植物	ナズナ	提案種
植物	ノグシ	提案種
植物	ハハコグサ	提案種
植物	ヒメミズワラビ	絶滅危惧種、識別困難
植物	ヒメミソハギ	絶滅危惧種、識別困難
植物	ムクノキ	提案種、普通種
植物	ムラサキサギゴケ	提案種
植物	ハクモクレン	植栽種であり、植えられれば、どこでも確認できる
植物	コブシ	植栽種であり、植えられれば、どこでも確認できる
植物	ユキヤナギ	植栽種であり、植えられれば、どこでも確認できる
植物	ヤマモモ	植栽種であり、植えられれば、どこでも確認できる
昆虫	アオイトトンボ	識別困難、発見が稀
昆虫	アオスジアゲハ	提案種（家のまわり：尼崎らしさ）
昆虫	アオモンイトトンボ	提案種
昆虫	エンマコオロギ	提案種（家のまわり：尼崎らしさ）

区分	種名	ご指摘・ご意見
昆虫	カブトムシ	提案種
昆虫	キリギリス類	提案種
昆虫	ギンヤンマ	提案種
昆虫	クマゼミ	地球温暖化の影響により増えている種（クマゼミが多いことが樹林環境を指標しない可能性がある）
昆虫	コクワガタ	提案種
昆虫	ゴマダラチョウ	提案種
昆虫	タマムシ	提案種
昆虫	チビクワガタ	識別困難、発見が稀
昆虫	トノサマバッタ	提案種
昆虫	ヒグラシ	セミ類ならヒグラシではないか
昆虫	マツムシ	提案種
昆虫	ヤマトシジミ	提案種（家のまわり：尼崎らしさ）
鳥類	イカルチドリ	識別困難
鳥類	イソヒヨドリ	提案種
鳥類	カルガモ	識別困難
鳥類	カワウ	フン被害などネガティブな印象のある種（カワウがいることで河川の環境がよいと言えない可能性がある）
鳥類	カワセミ	提案種
鳥類	コゲラ	提案種
鳥類	シジュウカラ	提案種
鳥類	ツバメ	提案種
鳥類	ハクセキレイ	提案種
鳥類	ヒヨドリ	シジュウカラやコゲラを挙げれば十分では
鳥類	ホオジロ	提案種
鳥類	ホシハジロ	識別困難
鳥類	メジロ	提案種

区分	種名	ご指摘・ご意見
鳥類	オシドリ	武庫川以外での確認場所はどこか。10年以上前の確認のみということもあり、武庫川も含めて偶産種ではないか。偶産種なら、指標種として適切と思えない。 →兵庫県版レッドデータに尼崎市内で確認されたという記録があるのみで、正確な確認場所が不明であるほか、現在はほとんど見ることができないと考えられるため、削除しました。
昆虫類	アオモンイトトンボ	特徴が間違っている。書かれているのはアオイトトンボの特徴と思われる。 →修正しました。
昆虫類	ツマキチョウ	春の指標としてモンシロチョウと区別がつきにくいですが、逆にモンシロチョウとは違うことを認知してもらおうと思う。 →チョウ類としてツマキチョウ、コムラサキ、コミスジを追加しました。
昆虫類	ヒガシキリギリス	尼崎市域では圧倒的にニシキリギリスが多いと思うのであえて同じような種を挙げる必要はないと思う。

区分	種名	ご指摘・ご意見
昆虫類	ヒメボタル	成虫は5月に確認されるため、季節としては春では
哺乳類	アブラコウモリ	提案種
両生類	トノサマガエル	水田なら、トノサマガエルではないか。
両生類	ニホンアマガエル	公園の池でも確認できる。
爬虫類	アオダイショウ	提案種
爬虫類	ニホンカナヘビ	提案種
爬虫類	ニホンマムシ	提案種
爬虫類	ニホンヤモリ	提案種
魚類	ナマズ	提案種
魚類	ニホンウナギ	提案種
魚類	アユ	夏場に上流に上り、秋に産卵のために下流に下りてくる →季節については夏・秋としました。
底生生物	スジエビ	猪名川・藻川ではスジエビよりテナガエビの方が多
底生生物	テナガエビ	猪名川・藻川ではスジエビよりテナガエビの方が多

植物

分類			ランク			参考情報					ご意見・ご指摘	
目名	科名	種名	第5回部会 ランク (案)	新たな ランク (案)	修正の有無	天然記念物	種の保存法	環境省 RL2020	兵庫県版 RDB2020	大阪府 RL2014	意見・指摘内容、対応など	
イワヒバ	イワヒバ	イヌカタヒバ	B	—	●			VU				
トクサ	トクサ	イヌトクサ	A	C	●							
サンショウモ	デンジソウ	デンジソウ	A	A				VU	A	CR+EN		
		サンショウモ	—	C						VU		
ウラボシ	イノモトソウ	ヒメミズワラビ	C	B	●				C	NT		
		タマシダ	B	—	●				B			
ヒノキ	コウヤマキ	コウヤマキ	C	—	●					DD		
スイレン	スイレン	コウホネ	A	—	●				A	VU		
シキミ	マツブサ	サネカズラ	—	C	●							
センリョウ	センリョウ	センリョウ	C	—	●				C			
コショウ	ドクダミ	ハンゲショウ	C	—	●				C	NT		
		ウマノスズクサ	C	B	●				C			
オモダカ	モクレン	オガタマノキ	B	—	●				B			
		シデコブシ	C	—	●			NT				
クスノキ	クスノキ	ニッケイ	C	—	●			NT				
オモダカ	トチカガミ	クロモ	C	B	●				C			
		ヒルムシロ	—	C	●							
クサスギカズラ	ラン	ササバモ	B	A	●				B	NT		
		シラン	C	—	●			NT	調	CR+EN		
	アヤメ	エビネ	C	—	●			NT	C	NT		
		ヒオウギ	A	—	●					CR+EN		
		ヒメシャガ	A	—	●			NT	A			
		カキツバタ	B	—	●			NT	B	DD		
	アヤメ	C	—	●				調	DD			
	ススキノキ	ヤブカンゾウ	—	C	●							
	クサスギカズラ	ツルボ	—	C	●							
		スズラン	C	—	●				調			
コヤブラン		C	—	●				C		リストから削除		
ノシラン		B	—	●				B	DD			
イネ	ガマ	ナガエミクリ	C	B	●			NT	C	VU		
		ヒメガマ	—	C	●							
		コガマ	B	A	●				B	NT		
	イグサ	ヒメコウガイゼキショウ	—	C	●				C		種追加	
	カヤツリグサ	ヤガミスゲ	A	A						A	NT	
		シオクグ	C	B	●						NT	
		ヒトモトススキ	B	A	●						VU	Aランク、Cランク
		カンエンガヤツリ	C	B	●			VU	調			Bランク、Cランク
		ヌマガヤツリ	A	A					A			
		シロガヤツリ	C	B	●				C	DD		
		フトイ	C	B	●				調	VU		Bランク、Cランク
	イネ	トダシバ	—	C	●							
		オガルカヤ	—	C	●							
		ナルコビエ	C	B	●				C			
ミノボロ		B	A	●						VU	Aランク、Cランク	
メガルカヤ		—	C	●								
マコモ		—	C	●								
キンボウゲ	キンボウゲ	カザグルマ	B	—	●			NT	B	CR+EN		
		アキカラマツ	—	C	●							
ツゲ	ツゲ	ツゲ	C	—	●					NT		
ユキノシタ	ボタン	ベニバナヤマシヤクヤク	B	—	●			VU	B	CR+EN		
		マンサク	C	—	●			NT				
	トキワマンサク	A	—	●			EN					
マメ	マメ	カワラケツメイ	C	B	●					NT	Bランク、Cランク	

植物

分類			ランク			参考情報					ご意見・ご指摘
目名	科名	種名	第5回部会 ランク (案)	新たな ランク (案)	修正の有無	天然記念物	種の保存法	環境省 RL2020	兵庫県版 RDB2020	大阪府 RL2014	意見・指摘内容、対応など
		フジキ	B	—	●					VU	
		コマツナギ	—	C	●						
		ミヤコグサ	—	C	●						
		クララ	—	C	●						
		ツルフジバカマ	A	A					A	VU	
バラ	グミ	ツルグミ	—	C	●						
		アリマグミ	—	C					C		種追加
	クロウメモドキ	ヨコグラノキ	B	—	●				B		
	クワ	ヒメコウゾ	—	C	●				調		
		オオイタビ	C	—	●						
		ヤマグワ	—	C	●						
	バラ	エドヒガン	C	—	●				C		
		クサボケ	C	B	●				C		
		カワラサイコ	B	A	●				B	EX	
		モモ	A	—	●					CR+EN	
		シロヤマブキ	C	—	●			EN	調		
		サンショウバラ	B	—	●			VU			
		ハマナス	A	—	●				A		
		クサイチゴ	—	C	●						
		フレモコウ	—	C	●						
		シモツケ	B	—	●				B	DD	
		ユキヤナギ	B	—	●					VU	
ブナ	ブナ	ハンノキ	—	C	●						
		カシワ	C	—	●					NT	
		イチイガシ	C	—	●				C		
ウリ	ウリ	ゴキツル	C	B	●				C		
ニシキギ	ニシキギ	ツルウメモドキ	—	C	●						
		マユミ	—	C	●						
キントラノオ	トウダイグサ	ニシキソウ	C	B	●				C		
	ヤナギ	マルバヤナギ	A	—	●						環境省RLの掲載種ではない
	ヤナギ	ネコヤナギ	—	C	●						
		イヌヨリヤナギ	—	C	●						
	スマレ	ツボスマレ	—	C	●						
フトモモ	ミソハギ	ヒメミソハギ	C	B	●					NT	
		ミズマツバ	C	B	●			VU	C	NT	
		ヒシ	—	C	●						
	アカバナ	ミズキンバイ	B	A	●			VU			Aランク、Cランク
ムクロジ	ムクロジ	メグスリノキ	C	—	●				C		
		モクゲンジ	A	—	●				A		
		ムクロジ	C	B	●				C		
	ニガキ	ニガキ	—	C	●						
アオイ	アオイ	ハマボウ	A	—	●				A	EX	
		ヘラノキ	A	—	●				A		
アブラナ	アブラナ	コイヌガラシ	C	B	●			NT	C	NT	
ナデシコ	タデ	サデクサ	C	B	●				C	NT	
		コギシギシ	C	B	●			VU	調	NT	
ツツジ	サカキ	ハマヒサカキ	C	—	●				C		
	サクラソウ	ツルコウジ	C	—	●				C		
		サクラソウ	C	—	●			NT	調		
	ツバキ	ヒメシャラ	B	—	●				B		
	ツツジ	サツキ	A	—	●				A		
		シャシャンボ	—	C	●						

植物

分類			ランク			参考情報					ご意見・ご指摘	
目名	科名	種名	第5回部会 ランク (案)	新たな ランク (案)	修正の有無	天然記念物	種の保存法	環境省 RL2020	兵庫県版 RDB2020	大阪府 RL2014	意見・指摘内容、対応など	
リンドウ	アカネ	カワラマツバ	—	C	●							
		ハクチョウゲ	A	—	●			EN				
	キョウチクトウ	ケテイカズラ	C	C					調			
ナス	ヒルガオ	アオイゴケ	B	A	●				B			
シソ	モクセイ	ヒトツバタゴ	B	—	●			VU				
		イボタノキ	—	C	●							
		ミヤマイボタ	C	—	●						NT	
	オオバコ	イヌノフグリ	—	C				VU	C			
		カワヂシャ	C	B	●			NT	C		NT	
	ゴマノハグサ シソ	フジウツギ	C	—	●					C		
		カワミドリ	C	—	●						NT	
		キラソウ	—	C	●							
		コムラサキ	B	—	●						VU	
		メハジキ	—	C	●							
		シロネ	—	C	●							
		ハッカ	—	C	●							
		レモンエゴマ	—	C	●							
		ミゾコウジュ	B	A	●				NT	B	NT	
	モチノキ	モチノキ	ハマゴウ	B	—	●						VU
ナナミノキ			—	C	●							
タマミズキ			C	—	●					C		
キク	キキョウ	ツリガネニンジン	—	C	●							
		ホタルブクロ	—	C	●							
		キキョウ	B	—	●			VU			VU	
	ミツガシワ	ガガブタ	A	—	●			NT			CR+EN	
		アサザ	B	—	●			NT	B		DD	
	キク	カワラヨモギ	—	C	●							
		オトコヨモギ	—	C	●							
		ユウガギク	—	C	●							
		ノコンギク	—	C	●							
		ヨメナ	—	C	●							
		ノジギク	C	—	●					C		
		フジバカマ	A	—	●			NT	A		CR+EN	
		カシワバハグマ	B	—	●				B			
		シロバナタンポポ	—	C	●							尼崎独自のランク (AMランク) の提案があったが、Cランクとしている。 ※聞き取り調査で確認
	カンサイタンポポ	—	C	●							尼崎独自のランク (AMランク) の提案があったが、Cランクとしている。	
セリ	セリ	ハナウド	—	C	●							
マツムシソウ	スイカズラ	スイカズラ	—	C	●							
		キンキヒョウタンボク	A	—	●			EN	A		CR+EN	
		オミナエシ	C	—	●						NT	

複数の意見・指摘があった場合には、高いランクを採用している

0 0 31 68 50

鳥類

分類			ランク			参考情報					ご意見・ご指摘	
目名	科名	種名	第5回部会 ランク (案)	新たな ランク (案)	修正の有無	天然記念物	種の保存法	環境省 RL2020	兵庫県版 RL2013	大阪府 RL2014	意見・指摘内容、対応など	
カモ	カモ	ツクシガモ	B	—	●			VU				
		オシドリ	B	—	●			DD	B			
		アメリカヒドリ	C	—	●				注			
		シマアジ	C	—	●				C			
		トモユガモ	C	—	●			VU	C			
		クロガモ	C	—	●				C			
ペリカン	サギ	ウミアイサ	C	C						NT		
		ヨシゴイ	A	—	●			NT	A	VU		
		オオヨシゴイ	B	—	●			CR	B			
		ササゴイ	C	C					C			
		アカガシラサギ	C	—	●				注			
		アマサギ	B	B							VU	
ツル	クイナ	チュウサギ	C	—	●			NT	C			
		クイナ	C	—	●				調	NT		
ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	A	—	●		NT	A	VU			
アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ	B	—	●				B			
チドリ	チドリ	タゲリ	C	—	●						NT	
		ケリ	C	C				DD			NT	
		ダイゼン	C	—	●					C	VU	
		イカルチドリ	B	B						B	VU	
		コチドリ	C	C							NT	
		シロチドリ	A	A					VU	A	VU	
		メダイチドリ	B	—	●		国際希少				VU	
		オオメダイチドリ	B	—	●		国際希少			B	NT	
		シギ	タシギ	B	—	●					B	NT
			オグロシギ	B	—	●					B	NT
			オオソリハシシギ	B	—	●		国際希少	VU	B	VU	
			ツルシギ	B	—	●			VU	B	VU	
	コアオアシシギ		B	—	●				B	NT		
	アオアシシギ		B	B					B	VU		
	タカブシギ		B	B				VU	B	VU		
	キアシシギ		C	C							NT	
	ソリハシシギ		B	—	●				B	VU		
	イソシギ		C	C					C		NT	
	キョウジョシギ		B	—	●						VU	
	オバシギ		C	—	●		国際希少		C	VU		
	コオバシギ		B	—	●		国際希少		B	NT		
	ミユビシギ		B	—	●				B		NT	
	トウネン		C	—	●						NT	
	オジロトウネン		B	—	●					B	NT	
	ウズラシギ		B	—	●					B	VU	
	ハマシギ		C	C					NT	C		
	エリマキシギ		B	—	●					B	NT	
	アカエリヒレアシシギ	C	—	●					調			
	カモメ	コアジサシ	B	B					VU	B	CR+EN	
		アジサシ	C	—	●					注		
		クロハラアジサシ	C	—	●					調		
	タカ	ミサゴ	ミサゴ	A	A				NT	A		
		タカ	チュウヒ	A	—	●		国内希少	EN	A	CR+EN	
ハイイロチュウヒ			C	—	●				C		NT	
ハイタカ			C	C					NT	C		
オオタカ			B	B					NT	B	NT	

鳥類

分類			ランク			参考情報					ご意見・ご指摘
目名	科名	種名	第5回部会 ランク (案)	新たな ランク (案)	修正の有無	天然記念物	種の保存法	環境省 RL2020	兵庫県版 RL2013	大阪府 RL2014	意見・指摘内容、対応など
		ノスリ	B	B					B	NT	
		ケアシノスリ	B	—	●				B		
フクロウ	フクロウ	オオコノハズク	B	—	●				B	DD	
		フクロウ	C	C						NT	
		アオバズク	B	—	●				B	VU	
		トラフズク	B	—	●				B	VU	
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	C	C					注		
キツツキ	キツツキ	アリスイ	B	B					B		
ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	B	B			国内希少	VU	B		
スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	C	—	●			VU	C	VU	
	ツリスガラ	ツリスガラ	C	—	●				C		
	ヒバリ	ヒバリ	C	C						NT	
	ツバメ	コシアカツバメ	C	—	●					NT	
	ムシクイ	オオムシクイ	C	C				DD			
		メボソムシクイ	B	B					B		
		センダイムシクイ	C	—	●					NT	
	センニュウ	オオセッカ	A	A			国内希少	EN			
	ヨシキリ	オオヨシキリ	C	C					注	NT	
	セッカ	セッカ	C	C						NT	
	ムクドリ	コムクドリ	C	C					注		
	ヒタキ	コマドリ	B	—	●				B		
		ルリビタキ	A	A					A		
		ノビタキ	A	A					A		
		コサメビタキ	C	C					C	VU	
		キビタキ	C	C					注		
		オオルリ	C	C					注		
		アトリ	コイカル	C	—	●				C	
	ホオジロ	ホオアカ	A	—	●				A	NT	
		カシラダカ	C	—	●					NT	
		アオジ	A	A					A		
		オオジュリン	C	—	●					NT	

第5回部会でのご意見への対応として、古い情報（兵庫県版RL2013において2002年以前の目撃情報しかないもの）に基づき抽出していた種は除外した。

昆虫類

分類			ランク			参考情報					ご意見・ご指摘			
目名	科名	種名	第5回部会 ランク(案)	新たな ランク(案)	修正の有無	天然記念 物	種の保存 法	環境省 RL2020	兵庫県版 RL2012	兵庫県版 RL2022	大阪府 RL2014	意見・指摘内容、対応など		
トンボ	イトトンボ	セスジイトトンボ	C	C						要調査	NT			
	トンボ	コフキトンボ	C	C								NT		
		ナツアカネ	C	C								NT		
		アキアカネ	C	C						要注目		NT		
		ノシメトンボ	C	—	●						要調査	NT	記録が古い	
		マイコアカネ	C→B	B	●						B	NT		
	ミヤマアカネ	C	C					C	要注目		NT			
バッタ	キリギリス	カヤキリ	C→除外	—	●				要注目					
カメムシ	アメンボ	ヤスマツアメンボ	C	C								NT		
	コオイムシ	コオイムシ	C	C			NT					NT		
	タイコウチ	ヒメミズカマキリ	C	C								NT		
チョウ	マダラガ	ルリハダホソクロバ	C	C			NT					NT		
	シジミチョウ	ウラナミアカシジミ	C	C					C	要注目		VU		
		シルビアシジミ	B→C	C	●			EN	B	C		CR+EN		
	タテハチョウ	オオムラサキ	C	—	●		NT		C	C		NT	記録が古い	
	シロチョウ	ツマグロキチョウ	C	C			EN	要注目	要注目			CR+EN		
	ヤガ	ハマオモトヨトウ	C→除外	—	●								要調査	
		クロシオキシタバ	C	—	●					要注目	要注目		VU	記録が古い
コウチュウ	オサムシ	オサムシモドキ	C	—	●					要調査	要調査	VU	記録が古い	
	ハンミョウ	ヨドシロヘリハンミョウ	A	—	●			VU	A	A		EX	記録が古い	
		ナミハンミョウ	C	C									NT	
	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ	A	—	●			VU	A	A		CR+EN	記録が古い	
		コガタゲンゴロウ	A	—	●			VU	A	A		EX	記録が古い	
		マルガタゲンゴロウ	C	—	●			VU	C	C		CR+EN	記録が古い	
	ガムシ	コガムシ	C	—	●			DD				NT	記録が古い	
	シデムシ	ツシマヒラタシデムシ	C	—	●							NT	記録が古い	
	クワガタムシ	チビクワガタ	—	C	●									
		オオクワガタ	B	—	●			VU	B	B		VU	飼育・逸出個体と考えられる	
		コクワガタ	—	C	●									
		スジクワガタ	—	C	●									
		ヒラタクワガタ本土亜種	—	C	●									
	コガネムシ	ドウガネブイブイ	C	C									NT	
		ヤマトアオドウガネ	C	—	●					C	C		CR+EN	記録が古い
		シロスジコガネ	B	—	●					B	B		CR+EN	記録が古い
		ヒゲコガネ	B	—	●					B	B		VU	記録が古い
セマルケシマダグソコガネ		C	—	●								NT	記録が古い	
カブトムシ	—	C	●											
タマムシ	タマムシ	—	C	●										
ホタル	ヒメボタル	C	C											
カミキリムシ	クワカミキリ	C→除外	—	●					要注目	要調査	NT			
ハムシ	クロオビツツハムシ	C	C									NT		
	ヤマトスナハキバチ本土亜種	C	C					DD						
ハチ	スズメバチ	ヤマトアシナガバチ	C	C				DD						
		モンズズメバチ	C	C					DD					
	ハキリバチ	ヤマトスナハキバチ本土亜種	C	C					DD					
		トモンハナバチ	未選定→C	C	●						要調査			
	クズハキリバチ	C	C					DD						
	キバラハキリバチ	C	C					NT						

2012年改定された兵庫県版RLに基づき一部の種についてはランクの変更(緑色の塗りつぶし)が生じている。

※「第5回部会ランク(案)」の欄において「→」が示されている種

魚類

分類				ランク			参考情報					ご意見・ご指摘			
目名	科名	種名	学名	第5回部会 ランク (案)	新たな ランク (案)	修正の有無	天然記念 物	種の保存 法	環境省 RL2020	兵庫県版 RL2017	大阪府 RL2014	意見・指摘内容、対応など			
ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	C	C				EN	Cランク	VU				
コイ	コイ	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	C	—	●			地域個体群 (琵琶湖)			国内外来種として取り扱うことが妥当			
		ゲンゴロウブナ	<i>Carassius cuvieri</i>	A	—	●			EN			国内外来種として取り扱うことが妥当			
		カネヒラ	<i>Acheilognathus rhombeus</i>	B	B						Bランク				
		カワバタモロコ	<i>Hemigrammocypripis neglectus</i>	A	—	●		特定第二種	EN		Aランク	CR+EN	飼育・逸出個体と考えられる		
		ヌマムツ	<i>Candidia sieboldii</i>	B	B							VU			
		アブラハヤ	<i>Rhynchocypris lagowskii steindachneri</i>	C	C							Cランク	DD		
		ウグイ	<i>Pseudaspius hakonensis</i>	C	C								DD		
		カワヒガイ	<i>Sarcocheilichthys variegatus variegatus</i>	C	C					NT		Cランク	CR+EN		
		ムギツク	<i>Pungtungia herzi</i>	B	B								VU		
		タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	C	C								NT		
		ドジョウ	ドジョウ	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	C	C				NT		要注目	VU	
				チュウガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis striata striata</i>	A	A				VU			CR+EN	
ナマズ	ギギ	ギギ	<i>Tachysurus nudiceps</i>	C	C							NT			
	ナマズ	ナマズ	<i>Silurus asotus</i>	C	C							NT			
	アカザ	アカザ	<i>Liobagrus reinii</i>	C	C				VU	地域限定 貴重種		VU			
サケ	アユ	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	C	C							NT			
ダツ	メダカ	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	C	C				VU		要注目	VU			
スズキ	カジカ	カジカ (型不明)	<i>Cottus sp.</i>	—	B	●			NT or EN		B or C		カジカまたはカジカ (中卵型) と考えられるが、確実な同定がされていない。		
スズキ	イソギンボ ハゼ	トサカギンボ	<i>Omobranchus fasciolatoceps</i>	C	C							要調査			
		ヒナハゼ	<i>Redigobius bikolanus</i>	C	C							要調査			
		オオヨシノボリ	<i>Rhinogobius fluviatilis</i>	C	C							Cランク	DD		
		シマヒレヨシノボリ	<i>Rhinogobius tyoni</i>	C	C					NT		要調査	NT		
		トウヨシノボリ類	<i>Rhinogobius sp. OR unidentified</i>	C	C								DD	大阪府RLによる対象種は「トウヨシノボリ」。トウヨシノボリ類は、トウヨシノボリの可能性があるため、選定した。	
		ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>	C	C							Cランク	NT		

両生類・爬虫類・哺乳類

分類				ランク			参考情報					ご意見・ご指摘	
綱名	目名	科名	種名	第5回部会 ランク(案)	新たな ランク(案)	修正の有無	天然記念 物	種の保存 法	環境省 RL2020	兵庫県版 RL2017	大阪府 RL2014	意見・指摘内容、対応など	
両生綱	無尾	アカガエル	トノサマガエル	C	C				NT		NT		
			ツチガエル	C	C					Cランク	NT		
		アオガエル	モリアオガエル	B	—	●					Bランク		市内に自然分布は知られていない。確認されたのは導入個体であるため、除外。
爬虫綱	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	C	C				NT	Cランク	NT		
		スッポン	ニホンスッポン	C	C				DD	要調査			
	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ	C	C						要注目		
		トカゲ	ニホントカゲ	—	C	●							2011、2022年確認
		ナミヘビ	アオダイショウ	—	C	●							2003、2014、2022年確認
			シマヘビ	—	C	●							2011、2016年確認
		ジムグリ	C	C							要注目		
クサリヘビ	ニホンマムシ	—	C	●							2022年確認		
哺乳綱	ネズミ	ネズミ	カヤネズミ	C	C						NT		
		ネコ	イヌ	A	A							CR+EN	
	イタチ	イタチ	B	B							VU		

底生動物

分類			ランク			参考情報					ご意見・ご指摘	
目名	科名	種名	第5回部会 ランク (案)	新たな ランク (案)	修正の有無	天然記念 物	種の保存 法	環境省 RL2020	兵庫県版 RL2012・2014	兵庫県版 RL2022	大阪府 RL2014	意見・指摘内容、対応など
新生腹足	タニシ	オオタニシ	B	-	●			NT			VU	記録が古いため、削除
	イツマデガイ	カタヤマガイ	A	-	●			CR+EN				記録が古いため、削除
	カワザンショウガイ	ヒラドカワザンショウガイ	B	B					B		NT	
		カワザンショウガイ	C	C							NT	
汎有肺	ミズゴマツボ	エドガワミズゴマツボ	C	-	●			NT	C		NT	記録が古いため、削除
	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ	C	-	●			DD				記録が古いため、削除
		モノアラガイ	A	A				NT			CR+EN	
		ヒラマキガイ	C	C				DD				
柄眼		トウキョウヒラマキガイ	C	C				DD				
		カワコザラガイ	A	-	●			CR				記録が古いため、削除
	オカモノアラガイ	ナガオカモノアラガイ	C	C			NT				NT	
イシガイ	イシガイ	カタハガイ	-	-				VU	A		EX	記録が古いため、削除 1957年の標本記録 (s-net)
マルスダレガイ	シジミ	ヤマトシジミ	C	C				NT	C		NT	
		マシジミ	C	-	●			VU	注		VU	記録が古いため、削除
	ドブシジミ	ドブシジミ	C	-	●				C		NT	記録が古いため、削除
サンバゴカイ	ゴカイ	ヒメヤマトカワゴカイ	C	C					C		DD	
吻蛭	ヒラタビル	ミドリビル	C	C				DD				
エビ		イボビル	C	C				DD				
	ヌマエビ	ミゾレヌマエビ	B	B					B			
	テナガエビ	ヒラテテナガエビ	A	A					A		NT	
	ベンケイガニ	クロベンケイガニ	C	C					C			
		アカテガニ	B	B					B			
		モクズガニ	C	C					C			
トンボ		アシハラガニ	C	C								
		タイワンヒライソモドキ	B	B					B		VU	
	イトトンボ	ムスジイトトンボ	C	C					要注目	要注目		
	サナエトンボ	キイロサナエ	B	A	●			NT	B	A	NT	
		アオサナエ	C	C					C	要注目	NT	
	ホンサナエ	A	B	●				A	B	VU		
	トンボ	コフキトンボ	C	C							NT	
カメムシ	コオイムシ	コオイムシ	C	-	●			NT			NT	記録が古いため、削除
	ナベブタムシ	ナベブタムシ	C	-	●						NT	記録が古いため、削除
コウチュウ	ヒメドロムシ	ヨコミゾドロムシ	C	C				VU	C		NT	
		ホソヨコミゾドロムシ	C	-	●				C			記録が古いため、削除